

2018年7月

「海の日」にあたって

一般社団法人 日本造船工業会

会 長 か とう やす ひこ
加 藤 泰 彦

まず、このたびの西日本を中心とした豪雨災害により被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。さて、国民の祝日として「海の日」が制定されて以来、私たちは、あらためて海について考え、海とのふれあいを通じて海をより理解する機会を与えられました。今年の「海の日」を迎えるにあたり、海の恩恵に深く感謝し、海洋国家日本の繁栄を皆様とともに祈念いたしたいと思えます。

四方を海に囲まれているわが国は、古来より海を通じて人や物資の交流を行い、多様な文化を受け入れ、独自の文化を育て参りました。海がわが国の文化の発展に重要な役割を果たしてきたということは言うまでもありません。現在においても、私たちの暮らしを支えるエネルギー資源や物資の多くは海外からの海上輸送に依存しており、海を通じた貿易によってわが国の経済は成り立っています。また、水産資源・海洋資源などの豊かな海の恵みを私たちは享受しており、海を有効に活用していくことこそ、わが国発展の大きな原動力であると思えます。

日本造船業は、長年にわたり信頼性の高い船舶を建造することで、世界の海上貿易を支え、わが国経済の発展に貢献して参りました。近年、地球規模での環境保全対策が急務とされる中、海洋においても二酸化炭素（CO₂）や窒素酸化物（NO_x）、硫黄酸化物（SO_x）などの排出規制が段階的に強化され、地球環境保護への取り組みが活発化しております。日本造船業は、世界に誇る高度の建造技術と最先端の環境技術を活かし、次世代省エネ船や高環境性能船、

LNG燃料船など環境に優しい高性能な船舶の開発・建造を進めることで、地球環境保護に貢献していく所存であります。

一方、わが国は世界第6位の排他的経済水域を持つ海洋国家であり、海洋は無限の可能性を秘めたフロンティアであります。海洋基本法の下、3期目に入った新しい海洋基本計画に沿って海洋の開発と利用を進める体制の整備が加速され、海洋の活用範囲はますます拡大していくものと思われまます。日本造船業といたしましては、これまで培った造船技術を駆使して、再生可能エネルギーを活用した洋上風力発電・潮流発電・波力発電、海底資源開発などの海洋新産業の創生に果敢に挑戦し、未知のフロンティアを切り拓いてゆきたいと考えております。

さらに、日本造船業は、船舶の安定供給、高度な艦艇・巡視船艇の建造を通じ、日本の経済、安全保障はもとより、地域密着型の産業として、地域の経済・雇用に貢献するなど、海事産業の一翼を担っております。今後も地方創生に大いに貢献して参りたいと思っております。日本の産業の基盤である「ものづくり」を広く地域の皆さま、特に若い皆さまに見て頂くことを目的として今年も政府や日本財団が中心となって推進している「海と日本プロジェクト」に造船所見学会というイベントで積極的に協力させていただきます。

さて、「海の日」は、明治9年（1876年）に明治天皇が東北ご巡幸からお帰りの際、灯台巡視船「明治丸」に乗船され無事横浜にお帰りになられた日（7月20日・昭和16年（1941年）制定「海の記念日」）に由来し、平成7年（1995年）に「海の記念日」が「海の日」として国民の祝日に制定されました。しかし、現在「海の日」は7月第3月曜日とされ、7月20日が「海の日」とされた本来の意義から次第にかけ離れ、この日に対する国民の皆さまの意識が薄らいでいることは、誠に残念であります。

今年、平成30年（2018年）は、明治元年（1868年）から150年となる節目の年です。明治維新からはじまった近代国家日

本の建設において海運業・造船業は大変重要な役割を果たして参りました。東京海洋大学に保存されている「明治丸」においても記念式典が開かれることとなっておりますが、これを契機として今一度、「海の日」の由来と歴史的な意義を考え直してみる良い機会ではないかと思えます。わが国が真の海洋国家として発展し、また造船業をはじめ海事産業に携わる人々が誇りをもって働き、海の平和と安全、環境保全や海上交易の重要性を世界に発信していくためにも、是非、「海の日」を7月20日に固定して頂きたいと思えます。

「海の日」を契機に、この海洋国家「日本」に生まれた多くの方々、特にわが国の将来を担う若い世代の皆さまに、海に親しみを覚えて頂き、海についてもっと知って頂き、造船業をはじめ、海に携わる海事産業に魅力を感じて頂けることを期待しております。そのためにも、日本造船業といたしましては、未来を切り拓く、新しい技術の開発を通じて社会に貢献して参ります。今後とも日本造船業に対するより一層のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

以 上